

け い ち つ
啓 蝥
KEI CHITSU

岐阜県の蝶調査チェック
ポイントⅢ……飯田圀昌……………13

岐阜県のクロコノマチョウの記録……橋本 敦……………18

1983年、岐阜県における
偶産蝶の記録……飯田逸博……………18

岐阜県における
タケウチエダジャクの記録……近藤 諭・田部達也……………19

岐阜県における
ヒロヘリアオイラガの記録……尾藤成人・藤原麒一郎……………20

ヤマトチビコバナカミキリに
関する2, 3の知見……野平照雄……………21

キカマキリモドキを10月に採集する……飯田圀昌……………22

岐阜県昆虫分布研究会機関誌

岐阜県昆虫分布研究会(GKK)

岐阜県の蝶調査チェックポイントⅢ

飯 田 圀 昌

An introduction to the butterfly fauna of Gifu prefecture, III

Kunimasa IIDA

チェックポイントⅠではセセリ蝶科20種とアゲハ蝶科12種について(1983, 啓蝥, Vol. 1. No. 1)、Ⅱではシジミ蝶科の前編として27種を報告した。(1983, 啓蝥, Vol. 1. No. 2)

今回、チェックポイントⅢの発表にあたり出来るかぎり新しい知見とニュース的な記録を盛り込んだために不確実な点もあるかと思われるが、多くの人達の情報をもとにして、その人達の意にそえるようにはからったつもりである。

本報ではシジミ蝶科17種、ウラキンシジミ蝶科1種、シロ蝶科13種について発表する。

シジミチョウ科

60) ベニシジミ

平野部から高地帯まで広く分布するもので、記録をみてもこの様な状態が明瞭に示されている。本属の世界的な分布環境をみると、広大な草原に多種、多産となっている。しかし、日本ではその様な所は無く、本種1種のみが生息しているため食草さえあれば高地帯にも分布している。

本種の異常型のパターンを調べると外国産によく似た個体が時々発見されるため、異常型の場合には写真付きで報告する事が望ましい。

61) キマダラルリツバメ

日本で最初に採集された産地は、岐阜県郡上郡となっているが、その後の詳しい記録はない。標本商から時々岐阜県産の本種が売りに出され

ているが、すぐに売切れとなる状態で、本当に岐阜県産の標本であるのかという疑念を筆者はいただいている。

滋賀県では松の木に寄生しているが、東北地方では桑の古木、関東地方では桜の古木に寄生している事が知られている。このような木があれば、シーズン中には是非ひとたきしてみる必要がある。

本種はここ数年間に、郡上郡白鳥町付近で採集されている様だが個体数は少ないようである。

62) ゴイシジミ

暖温帯、温帯性樹林帯に広く分布しているが局地的である。

笹に寄生するアブラムシが生息しなければ本種は発生しない。そのため分布が極めて限られているが、よく移動もする。ともあれ笹原があれば一度はたたいてみて確認する必要がある。

本種にかぎり過去の産地はあまりあてにならない事も明記したい。

63) オオゴマシジミ

1960年代に本種の新産地として、新穂高温泉付近が発表された。この地域は分布上の西限の一つであり、多産地であるため多くの虫屋による「新穂高詣で」が行なわれた。そのため今は昔の面影が無い。

温帯性森林帯に分布し、選定基準のB、C、D、Fに該当する。新穂高では個体数が非常に少なくなったが、近くの谷筋を調べればまだ産地が発見できるものと思われる。

64) ゴマシジミ

高山付近、東濃地域および、白山付近に分布している。一般に高原に分布しているが、岐阜県での産地である上記の3地域はいずれも環境が異なっている事が注目される。これらは白山付近の高山性草原、高山付近の高原性草原、東

濃地域の湿地性草原として区別ができる。またアリとの共生も有名であるが、東濃地域にはクシケアリが分布していないとも言われているので、この点も解明する必要がある。選定基準のB、Dに該当する。一部のマニアの中にはどの産地が岐阜に近い所かを調査していたり、また他方では高名な産地へ通い続ける人もいる。分布が限られている本種のためには、後者の行為はあまり歓迎できるものでない。

65) クロシジミ

暖帯性、温帯性落葉樹林帯に分布する。選定基準のB、D、Gに該当する。

本種はアリとの共生関係を持つので、一次食物があってもアリが生息しなければ本種も生息せず、分布が非常に限定されている。

一次食物としてのコナラやヤマグミ等からなる雑木林のある場所では調査を試みる必要がある。

66) ヤマトシジミ

熱帯性、亜熱帯性および暖帯性の草原に広く分布しているので、寒冷地や、高標高地での生息は珍しい。仮に北アルプス山中で本種を採集したとなると、タカネキマダラセセリより「珍品」という事になる。この点を頭において調査する事が望ましい。

67) シルビアシジミ

1960年代まで河川の提防を中心に分布調査が進められ、ヤマトシジミよりも多産種として扱われていた。建設省の河川法によって提防が整備されたり、他の場合には冬期の火入れや、夏期の草刈り作業が進められたため局地的な生息地はたちまち減少して、現在では絶滅状態である。このような状況は全国どこでも同様である。しかしまだ野焼が行なわれず、提防の改良工事がなされていない所もあるので、このような場所

を早急に調査する必要がある。

68) ウラナミシジミ

熱帯系の蝶で、岐阜県では本種の越冬が確認されていない。現在のところ本種は、岐阜県には分布しないとされている。

県下の無雪地帯ともいわれる南濃町付近には、生息も可能と思われるが、まだ春の記録しかない。この点も調査、確認する必要がある。また、高標高地まで飛来している事もよくあるので、この様な所で採集された場合には標高も明記して記録する必要がある。

69) ルリシジミ

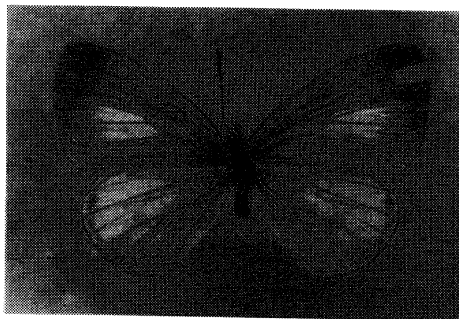
日本全土に広く生息し、垂直的には低地から高地まで分布している。「珍品主義」をとる虫屋にとっては本種も人気の無い種の1つであり、そのため記録も限定されている。食草と翅の色との間に関係があるといわれるが、筆者はまだ未確認である。

70) スギタニルリシジミ

温帯性樹林帯に植生しているトチノキがあればほぼ確実に生息している。他種の蝶の調査に入った時などにもこの木をマークしておけば、次のシーズンでの本種の調査が進めやすい。しかし、一部の産地ではトチノキが無くても本種の記録があるので、このことが100%あてはまるわけではなく、食樹の確認も大切である。

71) サツマシジミ

ルリシジミ属は風に乗って山頂に集まる習性がある。そのため滋賀県の比良山の様な寒冷地でも1♂が採集されている。この記録をもとに三重県の多度山で調査したところ本種を採集する事ができた(写真)。本県でも本種が絶対にはいないとは言えないので採集の可能性もある。ルリシジミと間違いやすいので一応ネットインしてみる必要がある。



サツマシジミ *Celastrina albocaerulea* MOORE
三重県多度山山頂 20-IV-1975(飯田園昌採集, 蔵)

72) クロツバメシジミ

岐阜県では高山市付近にしか生息地が無い。1982年11月に長野県で、5m程の岩塊に本種が限定的に生息している事を確認した。本種は極めて遺存的な種であり局地的にしか生息しないため、見落される可能性が強い。食草のある場所ではもっと慎重に調査する必要がある。

73) ツバメシジミ

本種もルリシジミと同じパターンで分布する。普通種だがやや少ない。

記録をみると東濃地方には珍しいということになるが、本当はもっと広く分布しているはずであり、本種の記録にも片寄りが激しいので、この様な事になっているものと考えられる。

74) ヒメシジミ

温帯性草原に生息するもので、中部分布圏が分布の西限となっている。選定基準のB、Gに該当する。

高地帯のクロテン型は北アルプス付近に分布し、低地性のクロヘリ型は低山帯に分布しているが、岐阜県の場合この点を明確に論じた報告はない。発表の際はいずれの型に属するかを明記する必要がある。

東濃地方に生息する本種は別の型になってい

るがまだ少数の記録しかない。

75) ミヤマシジミ

県下では分布が非常に限られている。食草が広く分布しているにもかかわらず本種の生息が限定される原因はまだ不明である。現在の産地がどのくらいの分布的広がりをもつかということは興味ある問題である。

76) アサマシジミ

最近本種についての2例の記録が発表されたが、いずれも8月の記録となっている。標高的にみると7月中旬における雄の記録が必要である。このことは、アサマシジミとヤリガタケシジミとを区別するための一つの要因となり得るものであり、両亜種の判定に役立つものと思われる。その近くにヤリガタケシジミが産することを理由に、採集品を十分調べないままヤリガタケシジミと断定することは現在のところ慎重でなければならない。

シロチョウ科

77) ヒメシロチョウ

選定基準種Cに該当し、温帯性気候の草地に生息する。全国的な分布状態は離散的である。昔は岐阜県での記録はなかったが、高山付近で発見後、分布は拡大している。分布拡大の経路を調べると、鉄道、国道等の主要幹線に沿っている。これは成虫の飛翔力が弱いため、蝶が列車の進行によって生ずる風に巻き込まれて運ばれやすい性質があるためである。以前筆者も青森市高田において、この状態を目撃しており、この場合蝶は約50mほど巻き込まれた。高山線沿いにどこまで南下するかが興味深い問題である。

78) キチョウ

広く熱帯から温帯まで分布している。しかし、

アルプス等の高標高地、東北地方以北には生息しないとされている。

記録をみるかぎり、飛騨地域、郡上地域、東濃地域等においては特定の場所には生息していない事になっている。もっと記録を多くすることが必要である。

79) ツマグロキチョウ

前種よりも分布区域が狭く、暖地性である。飛騨地域や高標高地の山地帯の生息は非常に珍しい。食草のカワラケツメイは河原や荒地等に自生しているので、道路沿いの荒地を調査し確認することが必要である。

80) ヤマキチョウ

本種の分布圏を全国的にみると、東北地方の一部と長野県を中心とした地域となっている。選定基準のB及びCに該当する。岐阜県では、御岳山麓の高原一帯と北アルプス付近で記録されているが、あまり多くない。

本種は成虫で1年以上生きていて、飛翔力が強いいため、意外な場所でも採集されている。7月下旬に前年度の成虫個体が採集された場合には、他地域より飛来したものの可能性もある。

81) スジボソヤマキチョウ

県下の山地の温帯性森林帯に広く分布する。食草は低山地一帯に分布するが、本種の生息地は限定される。平野部でも春先に採集されるが、これは別の場所で発生し、飛来したものであり土着種ではない。夏期から秋期に採集される個体は、その地域で発生したものかもしれない。美濃加茂市付近でも生息しているが、この近郊も土地開発が進みつつあるため、将来どうなるかは不明である。

82) モンキチョウ

元来は温帯性草原ならばどこにでもいる種であり、大雪山山頂から八重山諸島まで生息して

いる。「最普通種」であるため記録も多く、均一にでている。北アルプスの森林限界以上で採集される個体は夏期に前期の黒色部が強くなる傾向があるので、記載する場合にはこの点も明記する必要がある。

83) ミヤマモンキチョウ

北アルプス亜種の分布は、北アルプス一帯と乗鞍岳となっていたが、現在乗鞍岳では絶滅したものと考えられている。もし、過去にでも採集された標本があればぜひ写真を付けて発表してほしいものである。

高山蝶として人気の高い蝶であるため、本種の乱獲が多いと聞く。北アルプスでは個体数が少ないため、多数を得ることは無理かと思う。選定基準のBに該当する。

84) クモツマキチョウ

岐阜県では北アルプス付近にしか生息しない蝶で、生息場所の記録にも片寄りがみられることはやむを得ないと思われる。温帯性～亜寒帯性の草地に生息し、選定基準のBに該当する。植生が年々変化している草地で、険しい地形の場所に棲み、多数の個体が採集されることもあるが、現在では目撃だけでも「よし」と思った方がよい。飼育用として多数の卵が採集されることがあるため、正確な生息状態が把握しにくいことが多い。

85) ツマキチョウ

本州では山地から平地にまで分布していて、高地では発生期が遅れる事もある。高標高地の個体は低地産に比べると小型で、後翅裏面の雲状模様が発達しない個体が多い。これらの点について記した詳細な記録が今後のためにも必要である。

86) モンシロチョウ

「ニューワールド・バタフライ」ともいうべ

き種であり、人間の食べ物であるキャベツを主に食しているため、分布は人間の生活圏と一致している。よって「マニア」には全く魅力が無い蝶である。モンシロチョウは古来より日本に棲んでいたものではないとも言われている。野生のアブラナ科植物を食している場合には、その付近に全く人間の生活圏が無い場所もある。また、森林限界を越えた高山のお花畑で採集されたこともあり、このような場所で採集された個体についてはぜひ発表されることを希望する。

87) スジグロチョウ

前種と同じような場所に生息するが、混生することはほとんどない。野生のアブラナ科植物を食している。温帯性の森林帯が分布の中心となっているので、平野部の記録は珍しい。低山地に多く生息し、記録も一応揃っている。時々黄化型が採集されているが、遺伝型であるので、注意することが望まれる。

88) エゾスジグロチョウ

「エゾ」の名が付いているが、前種と同じ地域に混生していて、また、自然交雑もある。よって、同定が困難を極めることもある。また、どこにでも生息するためか記録も多い。本種はやや山地性であるが、低山地においても前種と一緒に生息している。しかし、混生の比率は調査されていない。

89) ミヤマシロチョウ

最近、岐阜県において採集したという報告が昆虫雑誌に発表された。これを読んだ時「ドキッ」としたが、よく調べてみると、実はエゾスジグロチョウの大破個体であった。

現在、岐阜県での生息は疑問視されているが、乗鞍岳西山麓一帯に分布の可能性がある。しかし、長野県側の東山麓一帯でも発見がほとんどないので、岐阜県側での確認にはあまり期待で

きないものの、今後とも詳細な調査が必要である。

ウラギンシジミ科

90) ウラギンシジミ

熱帯性の蝶であるが、寒さにも強く、寒冷地でも秋に多く見られる。しかし、成虫越冬ができるか否かはいまだに不明である。

冬期のゼフィルススの採卵やゴマグラチョウの幼虫採集の場合には、本種が樹上葉裏に潜っていて、落葉の中に隠れていた個体などが観察できる。しかし、本種の生態については資料がまだ不十分であるので、記録の発表を要する。食草のクズがあれば市街地でも発生しているが、まだ未報告となっている場所が多い。

岐阜県のクロコノマチョウの記録

橋 本 敦

Records of *Melanitis phedima oitensis* MATSUMURA (Lepidoptera, Satyridae) in Gifu prefecture

Atsushi HASHIMOTO

岐阜県において、クロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* MATSUMURA を採集しているので、記録を報告する。

養老郡上石津町時山, 17-VIII-1978, 1♂.

大垣市美和町, 15-X-1981, 1♂.

海津郡南濃町山崎, 3-XI-1983, 1♂.

南濃町山崎では、1979年に1♀, 1980年にも1♂, 1♀を採集しているが、1981年と1982年には採集していない。

なお標本は、いずれも筆者が採集し、所蔵している。

未筆ながら、発表を勧めて頂いた飯田逸博氏に厚くお礼申し上げます。

1983年、岐阜県における偶産蝶の記録

飯 田 逸 博

Records of alien butterflies in Gifu prefecture, 1983

Itsuhiro IIDA

1. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* LINNAEUS

岐阜市方県佐野大洞, 5-V-1983, 1♀*

岐阜市網代下雛倉, 19-VI-1983, 1♂. 不破郡垂井町大石, 1-X-1983, 1♀.

2. クロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* MATSUMURA

岐阜市北長森岩戸, 16-X-1983, 1♂, 23-X-1983, 1♀.

(標本は、いずれも筆者が採集し、所蔵している。なお*の記録は文献1からの引用である)

文 献

飯田逸博(1983) 1983年5月上旬の岐阜市のアゲハチョウ類. GKK通信2:2

啓蝥の原稿を募集します

- 原稿は原稿用紙に書いて下さい
- 出来上り6ページ(400字詰原稿用紙約20枚)以上の報文を一挙掲載する時は、原則として、超過分費用を著者負担とします。
- 原稿の書き方は、投稿規定が出来る間、本

号を参考にして下さい。不備な原稿は、編集者が訂正を求めることがあります。

- 英文タイトルは要望があれば編集者がつけます。
- 原稿の送り先、照会先は下記のとおりです。

〒500 岐阜市加納南陽町三丁目
岐阜県立加納高等学校内 田中正弘 宛

岐阜県におけるタケウチエダシャクの記録

近藤 諭

田部 達也

Records of *Biston takeuchii* MATSUMURA (Lepidoptera, Geometridae) in Gifu prefecture

Satoshi KONDO, Tatuya TANABE

タケウチエダシャク *Biston takeuchii*

MATSUMURA の産地は、栃木県太平町をはじめ、図1に示した地点等が知られているが、その分布状況は局所的で、非常にまれな種といわれる(井上, 1982)。

岐阜県では、1964年に美山町岩佐(中濃ブロック)の水銀燈で8個体が得られており、岐阜

県立岐山高等学校研究紀要2号に発表された(江川ら, 1964)。しかしその後当地からの記録はない。

筆者らは今回、あらたに恵那郡付知町及び加茂郡東白川村で本種を採集したので報告する。

発表にあたり、文献をおせわいただいた佐藤力夫博士(日本蛾類学会会員)に対し、お礼申し上げます。

恵那郡付知町付知峽, 13-IV-1982, 3♂♂.

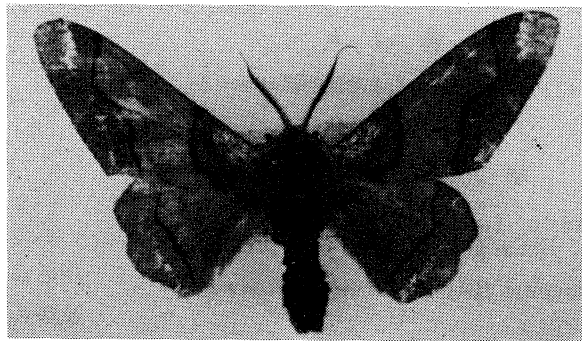
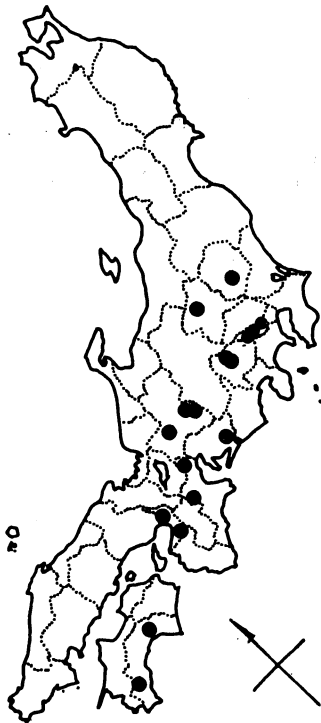
(近藤採集)

加茂郡東白川村神土, 3-V-1984, 1♂.

(田部採集)

文 献

1. 江川和志他(1964)美山町に産する夜行性昆虫一蛾一. 岐山高校研究紀要, 2: 101~126.
2. 布施英明(1974)群馬県の蛾仮目録 I; 80 pp. (個人出版)



タケウチエダシャク *Biston takeuchii* (付知産)

栃木県 大平町(落合, 1964)	岐阜県 東白川村(田部採集)
群馬県 伊香保(布施, 1974)	岐阜県 美山町(江川ら, 1964)
東京都 井ノ頭公園(井上, 1968)	三重県 藤原村(町)(山田, 1963)
" 浅川(八王子市)(井上, 1972)	" 赤目滝口(富田, 1963)
" 高尾山(井上, 1963)	大阪府 岩湧山(井上, 1968)
山梨県 長坂町(矢崎ら, 1979)	" 箕面(松村, 1931)
" 明野町(岸田ら, 1984)	(矢崎ら(1979)より間接引用)
愛知県 新城市(井上, 1959)	高知県 香北町(中山, 1983)
岐阜県 付知町(近藤採集)	" 大正町(中村, 1959)

図1. タケウチエダシャクの国内分布状況

3. 井上 寛 (1959) 菅貞義氏採集の新城市
桜淵公園の蛾類. 蛾類同志会通信, 16, 17 :
158 - 159.
4. ————— (1963) 東京都高尾山の蛾類目
録. 蛾類通信, 31 : 209 - 216.
5. ————— (1968) しゃくが科. 江崎悌三ほ
か, 原色日本蛾類図鑑, 上 : 163 - 292.
6. ————— (1972) シャクガ科. 井上寛ほか,
原色昆虫大図鑑, I (蝶蛾篇) : 176 - 224.
7. ————— (1982) シャクガ科. 井上寛ほか,
日本産蛾類大図鑑, I : 425 - 573.
8. 岸田泰明・川島保夫 (1984) 山梨県明野
村でタケウチエダシャクを採集. 蛾類通信,
125 : 405.
9. 松村松年 (1931) 日本昆虫大図鑑. 刀江
書院, 東京.
10. 中村重久 (1959) 四国未記録のシャクガ(1).
蛾類同志会通信, 16, 17 : 146 - 147.
11. 中山紘一 (1983) 高知県でタケウチエダシ
ャクの雌を採集. 月刊むし, 148 : 33.
12. 落合和泉 (1964) 栃木県南部平地林におけ
る注目すべき蛾の追加. 蛾類通信, 34 : 262 -
263.
13. 富田靖男 (1963) タケウチエダシャクを赤
目にて採集. ひらくら, 17(5) : 42.
14. 山田己三 (1963) 藤原岳の蛾短報. 佳香蝶,
15 (54) : 86.
15. 矢崎克己・吉本浩 (1979) タケウチエダシ
ャクの新産地. 蝶と蛾, 1, 2 : 123 - 124.

岐阜県におけるヒロヘリアオイラガの記録

尾 藤 成 人

藤 原 麒一郎

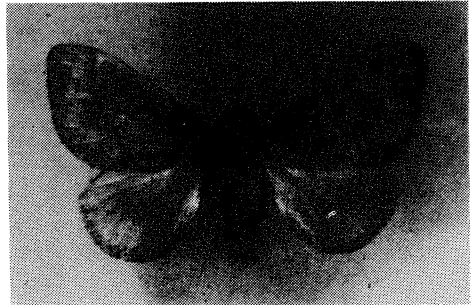
Records of *Latoia lepida* CRAMER (Lepidoptera, Heterogeneidae) in Gifu prefecture

Narihito BITO, Kiichirou FUJIWARA

ヒロヘリアオイラガ *Latoia lepida* CRAMER は、1981年10月9日付毎日新聞朝刊誌上で「緑の天敵」として取り上げられて以来、東海地方で話題になった蛾である。また本種は最近、分布を拡大しており、その動向が注目されている種でもある。

岐阜県においては、すでに岐阜市を始め5市4町で生息が確認されている(武田, 1982)が、筆者らも本種を採集しているので、岐阜県における分布の一資料としてここに記録しておく。

なお糸貫町産の個体は、岐阜県立加納高校の



川村卓弘氏が幼虫を採集され、本会会員である遠藤弘志氏が飼育、羽化させたものである。また日本蛾類学会の田中蕃氏には、本種の発生状況等について情報をいただいた。ここに各氏に対しお礼申し上げる。

揖斐・本巣：本巣郡糸貫町石原, 20-V-1983, 1♂ 2♀♀. 岐阜：岐阜市木造町, 25-VI-1982, 1♀. 各務原市鷺沼, 2-V-1983, 1♀, 24-VIII-1983, 1♀, 3-IX-1983, 1♂, 28-IX-1983, 1♂ 2♀♀. 各務原市那加, 13-VI-1983, 1♀.

文 献

武田 享 (1982) 外来昆虫および農林業害虫. 岐阜県の昆虫 : 185 - 191. (岐阜県)

ヤマトチビコバネカミキリに関する2, 3の知見

野 平 照 雄

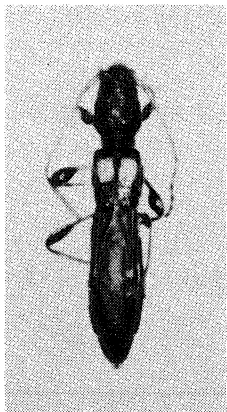
Some ecological notes on *Leptepania japonica* HAYASHI (Coleoptera, Cerambycidae)

Teruo NOHIRA

ヤマトチビコバネカミキリ *Leptepania japonica* HAYASHI はあまり採集できない種であるためか、この種に関する報告は少ないようである。筆者は偶然持ち帰った材から本種が大量に羽化脱出するという幸運に恵まれたので、さらにその現地で調査したところ、かなりの成虫を採集することが出来た。その間、本種に関する若干の知見を得たので、この経緯をまじえて報告してみたい。

筆者は県の林業試験研究機関に勤務しているが、たまたま松くい虫関係の仕事で岐阜県南部に位置する瑞浪市戸狩地内のアカマツ林を整地することになった。そこで昭和56年2月5日、アカマツ林内に生えているヒサカキ、ネズミサシ、ヤシャブシ、ヤマウルシ等のかん木類を伐採し、林内の数か所に集めてそのまま放置した。そして、10か月経過した昭和56年12月3日、定

期調査のため再度この現地を訪れたので、この時集積してある伐採木を適宜とり出し剥皮調査したところ、1本のヤシャブシ材にカミキリムシ類と思われる食痕がみられた。そこで、このヤシャブシ40cmを玉切って4本だけ持ち帰っておいたところ、昭和57年6月4日～8日に、このうち3本から14匹のヤマトチビコバネカミキリが羽化脱出した。しかし、その後は羽化脱出しなかったため、6月20日にこの材の片角を割材して材内の様子を調べたところ、まだ幼虫が生息していたので再び放置しておいた。するとさらに1年経過後の昭和58年5月25日～6月9日にやはりこの材から144匹ものヤマトチビコバネカミキリが羽化脱出してきた。そこで、羽化最盛期の5月30日にヤシャブシ材を持ち帰った現地へ出向いて野外の状況を調べたところ、放置してあるヤシャブシの枯枝から64匹の成虫



ヤマトチビコバネカミキリ



ヤマトチビコバネカミキリの生息している松林

を採集することができた。

以上のことから、ヤマトチビコバネカミキリに関する知見を整理すると、まず本種はヤシャブシにも寄生すること、長さ40cmの枝3本から158匹もが羽化脱出してきたことから、かなり高密度で寄生していること、そしてさらに発生は大部分が2年に1回であるが、中には年1回で発生するものもいることが確認された。

また、これらの現地はともに松くい虫被害が

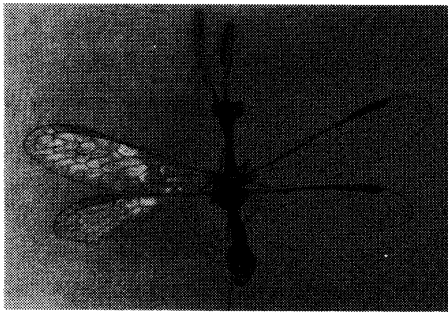
激しく、いたるところに松の枯損木が散在し、どちらかと言えば荒廃した林分である。普通ではまずこうした場所へは採集に行くことはないが、たまたま筆者が仕事の関係でこの林分へ行ったため採集できたものである。今まではこうしたことが盲点となって採集できなかったと考えられるが、今後こうした場所で調査すれば、各地でかなり採集できるのではないかと思われる。

キカマキリモドキを10月に採集する

飯 田 囿 昌

Eumantispæ harmandi Navás (Neuroptera, Mantispidae) captured in October

Kunimasa IIDA



キカマキリモドキ (春日村古屋産)

キカマキリモドキ *Eumantispæ harmandi*

Navás の成虫出現期は6~8月とされている。

金森伸一氏はゼフィルス採卵中にウラジロガシの新芽より同種を採集され、それを筆者に恵与された。貴重な発見をされたうえ、発表の機会を与えられた金森伸一氏に厚くお礼申し上げる。また色々と教示下さり、発表も勧めていただいた岡田正哉氏に感謝する。

(記 録)

岐阜県揖斐郡春日村古屋, 16-X-1983, 1 ex.

(金森伸一採集、岡田正哉保管)

文 献

日浦 勇 (1977) 原色昆虫図鑑下巻. 保育社: 180 pp.

※ ※ ※

〔訂 正〕 本誌、Vol. 1に次の誤りがありました。訂正するとともに、おわびいたします。

(誤)

(正)

No.1. 6 p. 右下10行目	5 ページ	6 ページ
No.1. 10 p. 左 1行目	トガリバガ科	カギバガ科
No.1. 10 p. 右 17行目	モトグロ コヤガ	モトグロ コヤガ
No.2. 14 p. 左 9行目	ハリハナ カミキリ	ルリハナ カミキリ
No.2. 23 p. 左下10行目	岐阜市加納 暖町	岐阜市暖町
No.2. 23 p. 左下1行目	山中峠	山中峠
No.2. 23 p. 右下6行目	山中峠	山中峠

啓 けいちつ 蝥

Vol. 2 No. 5

発行日/昭和59年(1984年)9月15日

編集者/田中正弘 尾藤成人 木野村恭一

発行者/岐阜県昆虫分布研究会

〒501-11 岐阜市柳戸1番1

岐阜大学教育学部内

TEL 0582 (30) 1111 内線 3162

郵便振替 名古屋5-8149

年額会費 3,000円

印刷所/名港印刷株式会社
名古屋港区築三町3-6